

# No. 1373

## 省エネ時代に備えて

— 神奈川・川崎 —

4月30日、小淵総理府総務長官が神奈川県川崎市の日本鋼管京浜製鉄所を視察しました。今回の視察は鉄鋼業界における省エネルギーの実態を視るために行われたものでエネルギー安定供給の政策課題のひとつです。高炉をはじめ熱延工場、エネルギーセンターなど広い工場をていねいに見て回る総務長官、係員の説明にひとつひとつうなづいていました。この製鉄所では高炉やコークス炉から発生するガスを回収し、燃料として利用するなどエネルギーの徹底した有効利用に努めています。経済社会の発展のため、最も基本的な要素であるエネルギー。こうした技術開発が早急に望まれます。

## 国際児童画展

— 愛知・名古屋 —

「紀元2,000年の私の生活」をテーマにした国際児童画展が、4月26日から10日間、愛知県の名古屋城で開かれました。これはユネスコとユニセフが昨年国際児童年を記念して行ったもので、89カ国の子供たちの作品115点が展示されています。どの画にも子供たちの夢や希望が素直に描かれています。チニアの女の子が描いた未来の海底都市、シンガポールの7才の男の子はヘリコプターと自動車をいっしょにした空陸両用の乗りものを、そしてジャマイカの男の子は川で行われる宗教行事を力いっぱい表現しています。この国際児童画展は東京、福岡でも開かれることになっています。

憲法記念日

## 高まる防衛論議

昭和22年、現行憲法が施行されて33回目、80年代では初めての憲法記念日を迎えた。国際情勢の緊張が続くなかで防衛論議も一段と高まり、今平和憲法の理念が失われようとしている。昭和20年、一千万人の犠牲を代償に敗戦、2度と戦争の悲劇は繰り返すまいと誓いながら新憲法に戦争放棄を宣言。しかし、それからわずか3年後、東西の冷戦は朝鮮動乱を誘発。マッカーサーの要請で、吉田政府は警察予備隊を創設。「戦力なき軍隊」の規模も年を追って増加、その名称も、警察予備隊から保安隊へ、そして昭和29年、国会乱闘事件の中で、防衛二法が成立。ここに陸・海・空三軍からなる自衛隊が誕生した。現在自衛隊は24万人、陸・海・空のバランスもとれ、極東諸国の中では最も近代化され、防衛費も世界8位となっている。日本の全人口の中で、昭和生まれが8割をしめるようになった現在、戦争体験の風化が叫ばれるが、劇画「日本国憲法」の著者、森哲郎さんは、「今こそ、憲法をもう一度見つめなおす必要がある」という。子供たちを再び戦場へ送ってはいけない。子供たちに銃を持たせてはならない。急激に“右旋回”する中で、そう願いつつ、子供たちに憲法をわかりやすく説く森さんだ。